

# 持続可能な買い物支援サービス網構築事業費 (R4~R5)

R5 予算額 19,205千円

## 現状分析と課題

### 現状分析

- ◆ 本県の65歳以上の老年人口が2025年時点で絶対数のピーク(2015年 39.4万人 →2025年 41.9万人)
- ◆ 老年人口割合は、2045年まで上昇(2015年 30.1%→2025年 36.4%→2045年 41.9%)
- ◆ 2015年における65歳以上の買い物弱者は13.2万人と推計

### 課題

- 買い物支援事業の採算性確保には、買い物客(売上)の確保が重要
- 買い物バス乗車ポイント(公民館等)への来訪促進や買い物利便性の向上が必要
- 原油高など事業環境変化に右対応し、売上を安定的に確保できる仕組みが必要

### 【概要】

交通手段を持たず広域的移動が困難な買い物弱者をターゲットとし、地域に点在する食品スーパーを核とした持続可能な買い物支援サービス網を構築する。

### 取組1 持続可能な買い物支援対策実証事業の実施

令和4年度の「持続可能な買い物支援サービス研究会」検討結果を踏まえ、食品スーパーへの送迎サービス等の実証事業を実施する。

#### ① 実証事業の実施<委託>

事業数：3件

内容：路線の設定、客数・客単価等への影響把握、実施に係る収支構造の把握、交通事業者との連携手法、利用者の評価 等

### 取組2 実証事業の検証及び対策検討

取組1の効果・改善点等を検証するとともに、利用者満足度と事業採算性(継続性)の両立・強化に向けた方策を検討する。

#### ① 専門部会<委託>

開催回数：2回/各実証

内容：実証事業に進捗管理、課題抽出・対策検討 等  
メンバー：各実証事業メンバー、専門家、事務局 等

#### ② 研究会<委託>

開催回数：2回/全体

内容：課題抽出・対策検討、結果整理・分析、利用者満足度と事業採算性(継続性)の両立・強化策、事業環境変化への対策 等  
メンバー：3実証事業メンバー、専門家、事務局 等

#### ③ 成果発表会<委託>

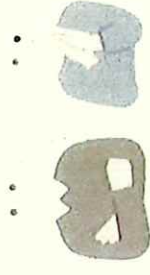
開催回数：1回/全体

内容：実証事業の結果報告、今後の方策の提案 等

## 事業の目指す姿

### 事業のアウトカム

- ◆ 買い物弱者ターゲット層の利用満足度の向上 (R5 80%超)



### 最終アウトカム

- ◆ 食品スーパー等による送迎サービス等、持続可能な買い物弱者対策の構築(買い物弱者の減少)
- ◆ 買い物弱者支援による青森県型地域共生社会の実現



### 3. 「令和5年度実証実験」 (八戸市)

#### (1) 実施イメージ

笹ノ沢地区から八戸市内の商業地区・公共施設へ住民を送迎する

【イメージ】



A. 単一居住区型	f. 単一居住区	g. 商業施設 (地区) 公共施設	+	j. 単独事業者	p. 事業者等保有	s. 事業者
-----------	----------	-------------------	---	----------	-----------	--------

① 運行時期	春、冬	② 運行頻度	週2回・1日4回
③ 運行時間帯	9～12時頃、12～15時頃	④ 片道所要時間	30分
⑤ 買い物時間	60分	⑥ 立ち寄り場所	八戸駅
⑦ 関係者			

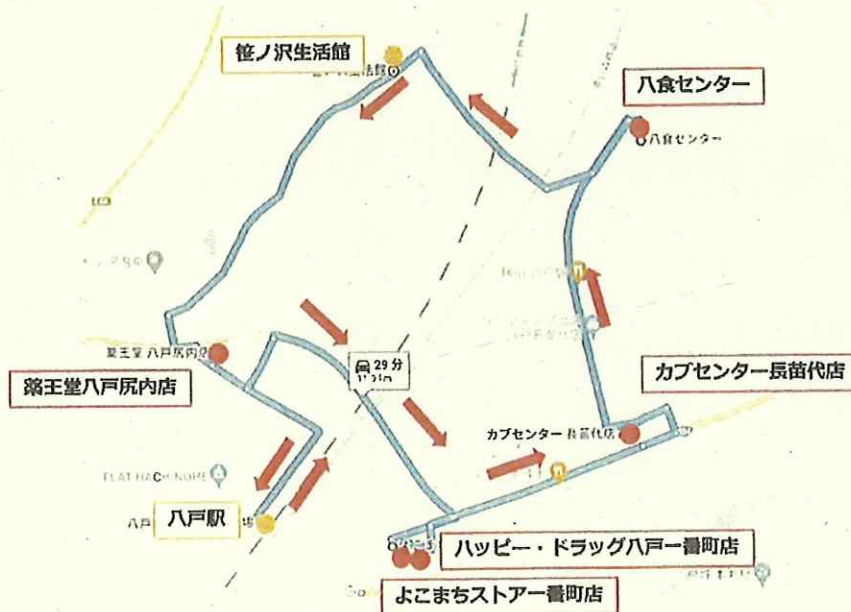
事業者等名称	役割
東北医療福祉事業協同組合	運営主体・バス運行・車両提供
八戸市	協力
社会福祉法人八戸市社会福祉協議会	協力
紅屋商事株式会社(カブセンター長苗代店)	協力(データ収集等)
株式会社よこまち(よこまちストア一番町店)	協力(データ収集等)
株式会社丸大サクラ中薬局(ハッピー・ドラッグ八戸一番町店)	協力(データ収集等)
株式会社薬王堂(薬王堂八戸尻内店)	協力(データ収集等)
株式会社ユニバース(ユニバース八戸ニュータウン店)	協力(データ収集等)
協同組合 八食センター(八食センター)	協力(データ収集等)
	(順不同・敬称略)
	Aomori Creation Partners

8

### 3. 「令和5年度実証実験」 (八戸市)

#### (2) 運行ルート (想定)

##### ① 八戸駅近郊商業地区ルート



※各所に中央分離帯あり

□ = 買い物バスの停留所 (乗降可)

周回距離	所要時間
約11.8km	41分

9

### 3. 「令和5年度実証実験」 (八戸市)

#### (2) 運行ルート (想定)

##### ② 八戸ニュータウン商業地区ルート



10

artners

### 3. 「令和5年度実証実験」 (八戸市)

#### (3) 各ルート運行ダイヤ (想定)

##### ① 八戸駅近郊商業地区ルート

	停留所名	第1便	第2便	第3便	第4便	所要時間	距離
1	笹ノ沢生活館	10:00	10:45	13:00	13:45	—	—
2	粟王堂八戸尻内店	10:05	10:50	13:05	13:50	5	2.1
3	八戸駅	10:12	10:57	13:12	13:57	7	1.3
4	よこまちストア一番町店 ハッピー・ドラッグ八戸一番町店	10:21	11:06	13:21	14:06	9	3
5	カプセンター長苗代店	10:28	11:13	13:28	14:13	7	1.4
6	八食センター	10:38	11:23	13:38	14:23	10	2.3
7	笹ノ沢生活館	10:41	11:26	13:41	14:26	3	1.7
	合計					41	11.8

買い物時間：45分

※所要時間には乗降時間も含む

### 3. 「令和5年度実証実験」 (八戸市)

#### (3)各ルート運行ダイヤ (想定)

##### ②八戸ニュータウン商業地区ルート

	停留所名	第1便	第2便	第3便	第4便	所要時間	距離
1	笹ノ沢生活館	10:00	10:45	13:00	13:45	—	—
2	八戸駅	10:10	10:55	13:10	13:55	7	3.3
3	ユニバース八戸ニュータウン店	10:26	11:11	13:26	13:11	13	6.1
4	笹ノ沢生活館	10:40	11:25	13:40	14:25	14	6.8
	合計					40	16.4

買い物時間：45分

※所要時間には乗降時間も含む

# 八戸、新郷で買い物弱者送迎

## 23年度、県が実証実験

青森県は2023年度、広域的な移動が困難な買い物弱者に対する持続的支援策の構築に向け、八戸市尻内町笹ノ沢地区と新郷村で送迎サービスの実証実験を始める。民間や行政、住民らが一体となって取り組むのが特徴で、両地域をモデルに、補助金に頼らない採算の取れる送迎サービス確立を目指す。

17日、県が青森市で開いた「持続可能な買い物支援サービス網構築事業」に関する会合で発表した。笹ノ沢地区は路線バスや

コミュニティバスの運行がなく、住民から送迎サービスを要望する声が上がっていた。新郷村はコミュニティバスなどが通るもの

の、集客が点在しているため、全域をカバーできない現状だ。県は両地域の住民を対象に実施した買い物動向調査を基に、具体的な運

行コースなどについて関係者と協議した。笹ノ沢地区では、東北医療福祉事業協同組合(同市)が2路線を各週1回運行の予定。笹ノ沢生活館をスタートし、八戸駅近郊の商業地区と八戸ニュータウンに向かう2ルートを設定する。新郷村では、千葉貨物運輸(同村)が5路線を各週1回運行。西越、小坂・戸来、川代の3地区5地点に分かれ、五戸町のスーパーやドラッグストアなどを回る。開始時期はいずれも調整中という。

実証実験では、自治体や参加商業施設が協力し、各店での購入金額やガソリン代などを分析。課題や効果を検証し、利用者満足度と事業採算性の取れた送迎サービス構築につなげる。

会合に参加した八戸市都市政策課の田邊宗徳主事は「事業を継続するには1人当たりの利用率や購入額が重要。モデル地域として、県全体に広がるような取り組みにしたい」と話していた。(玉川那津美)

## 買い物支援バス運行へ

県内市町村やスーパー、交通系企業などをつくる「持続可能な買い物支援サービス研究会」は17日、2023年度に八戸市、中泊町、新郷村で買い物支援バスの実証実験を行うことを明らかにした。交通手段がなく広域の移動が困難な「買い物弱者」を支援する県の持続可能な買い物支援サービス網構築事業の一環で、初めての実施となる。

実施地域は、八戸市尻内町笹ノ沢地区、中泊町宮野沢地区と、新郷村全域。23年度中の3カ月間、各対象地域と最寄りの商業施設や病院を支援バスが結ぶ。運行時期が決まり次第、県などのホームページで公表する。

### 研究会実証実験 八戸、中泊、新郷で

青森市の東奥日報新町ビルで同日開いた研究会では、2月に行った対象地域住民へのアンケート結果を基に、運行頻度やルート案を話し合った。事業者や自治体担当者からは「商業施設までの乗車時間が短くすべき」「冬季だけでなく、雪がない時期も実験した方がいいのでは」などの意見が出た。

送迎先のスーパーやドラッグストアは、各店での購入金額などのデータ収集に協力し、運行に必要な経費や課題を洗い出す。24年度以降の継続運行の可能性も探る。

(小泉結香)